

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 5月 31日

派遣者氏名（専門分野）	小林 ひかり （音楽学）
-------------	--------------

派遣期間	2012年 1月 24日 ～ 2012年 3月 29日
------	-----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
ノルウェー	オスロ ベルゲン	国立図書館 Nasjonalbiblioteket ベルゲン公立図書館 Bergen Offentlige Bibliotek

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

■国立図書館 Nasjonalbiblioteket (<http://www.nb.no>)

今回の滞在中に国立図書館で主に利用したのは、映像・音楽資料室 (Mediateket) と特別読書室 (Spesiallesesalen) である。音楽資料室の開架には参考図書の類しか置かれていないので、その他の著作、音楽雑誌、新聞等を閲覧するには予約が必要だ。予約は図書館のホームページからメールを送信することでできるようになっている。また、私がハンカ・シェルデルプ・ペツォルト (Hanka Schjelderup Petzold, 1862–1937) に関する資料を収集しているということを司書の方に伝えたところ、シェルデルプ家が図書館に送ったという彼女の演奏会プログラムや新聞の切り抜きも、閲覧できるように親切に準備してくれていた。私の感覚では、他の欧米諸国の図書館に比べて、ノルウェーの図書館は訪問者数に対する職員の人数が多く、対応が親切でメールの返信も早い。

H.S.ペツォルトの多数の手紙がこの図書館に保管されているということも司書の方から教えてもらった。手紙も先の演奏会プログラムや新聞の切り抜きも、図書館のウェブサイトから検索できないので、問い合わせの際には見たい資料のリストだけでなく自分の研究テーマについてもある程度司書に伝えてみるべきものと思った。

特別読書室には H.S.ペツォルトの手紙が 500 通以上も保管されていた。これらの手書きの資料を閲覧するには特別読書室の長の許可を得なければならないというので、彼女と連絡を取って許可を得た。これらの手紙は、シェルデルプ家の希望で、私的なものなので原則コピー／写真撮影禁止とされていた。それゆえに私はシェルデルプ家の一人と連絡を取り、許可を得てから写真撮影を行った。

マイクロフィルムでしか見ることのできない音楽雑誌については本館で閲覧した。資料を請求してから十数分後にはフィルムを持ってきてもらえ、マイクロフィルムリーダーの使い方も丁寧に説明してもらえた。リーダーの横にはパソコンが置かれていて、USB メモリを持参すればスキャンしたデータを無料で入手できるようになっている (画質はあまり良くないが)。

■ベルゲン公立図書館 Bergen Offentlige Bibliotek (<http://bergenbibliotek.no>)

H.S.ペツォルトが少女期を過ごしたベルゲンでは、当時の地元の新聞に彼女や彼女の家族に関する記事が見つかる可能性があると思ったので事前に問い合わせ、訪問日までに準備しておいてもらった。特殊な資料でなければ、予約の必要なく利用できる図書館である。

上記の図書館の他に、オスロの公立図書館であるダイクマン図書館 (Deichmanske Bibliotek) やオスロ大学図書館も利用したが、いずれも予約なしで入館できるので、ここでは説明を省略する。